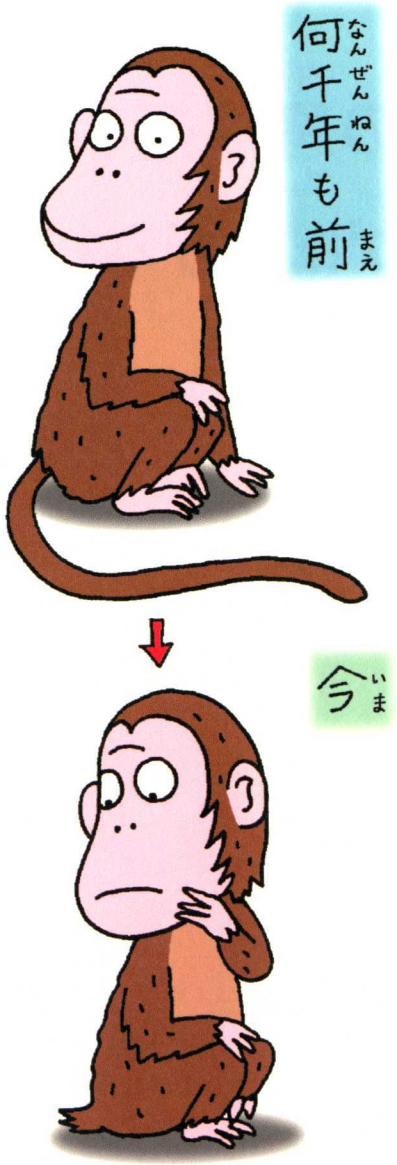
にほんご よむよむ文庫 レベル 1

どうして猿(さる)の尾(お)は短(みじか)い?
どうしてクラゲ(くらげ)は骨(ほね)がない?

再話（さいわ）　：小田 正子（おだ まさこ）
挿絵（さしえ）　：宇田川 のり子（うだがわ のりこ）
監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

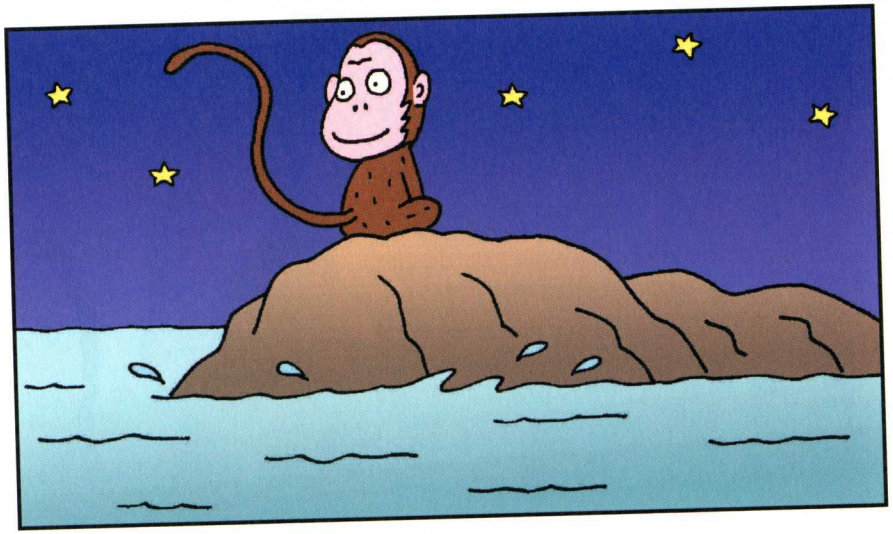
どうして猿の尾は短い？

何千年も前、日本の猿の尾は、とても長かったです。
でも、今は、とても短いです。
それは、どうしてでしょう？

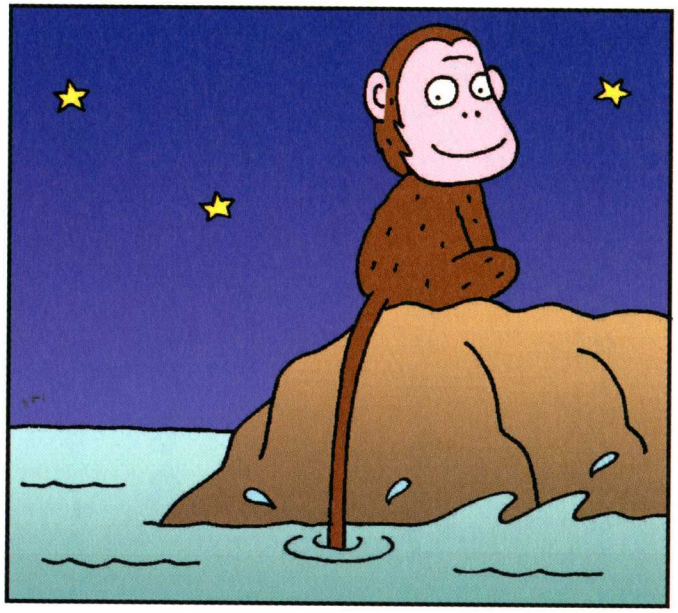


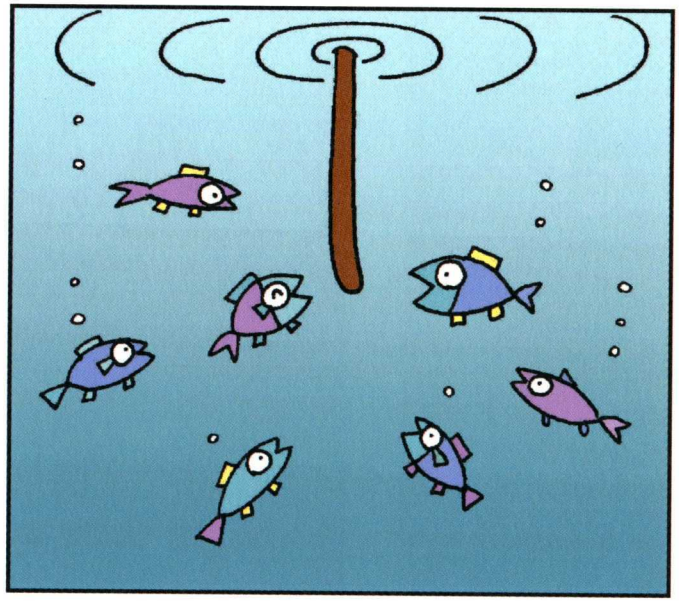
ある日、猿は、熊のうちへ行きました。
そして、聞きました。
「熊さん、熊さんは、いつも魚をたくさんとりますね。
いいですね。私も魚をたくさんとりたいです。
どうやってとりますか？」

熊は、猿に言いました。
「とても簡単です。
寒い日の夜、岩の上に座ります。
それから、尾を水の中に入れます」
「それだけですか？　簡単ですね。
熊さん、いい話をありがとう」
その日の夜、猿は、川へ行きました。
とても寒い夜でした。



猿は、尾を水の中に入れました。





……一時間。

――寒いなあ。尾が冷たいなあ。

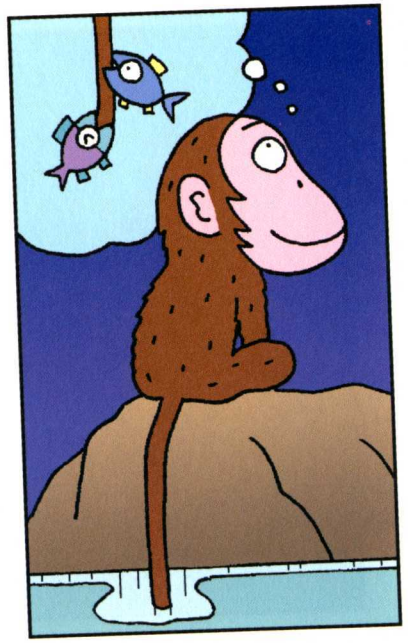
でも、まだ、まだ！――

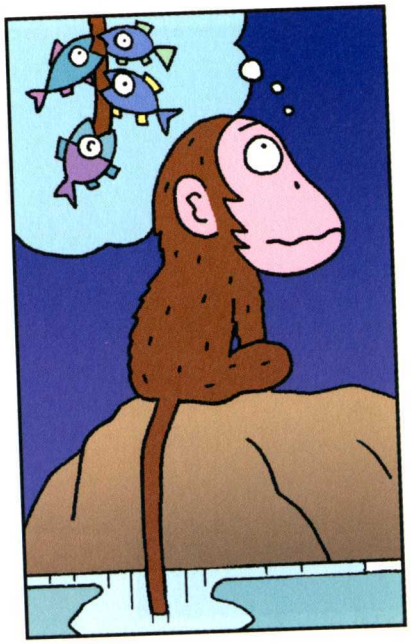
尾は、少し重いです。

……二時間。

――寒いなあ。尾も体も冷たいなあ。

でも、まだ、まだ！――





尾は、前よりもっと重いです。

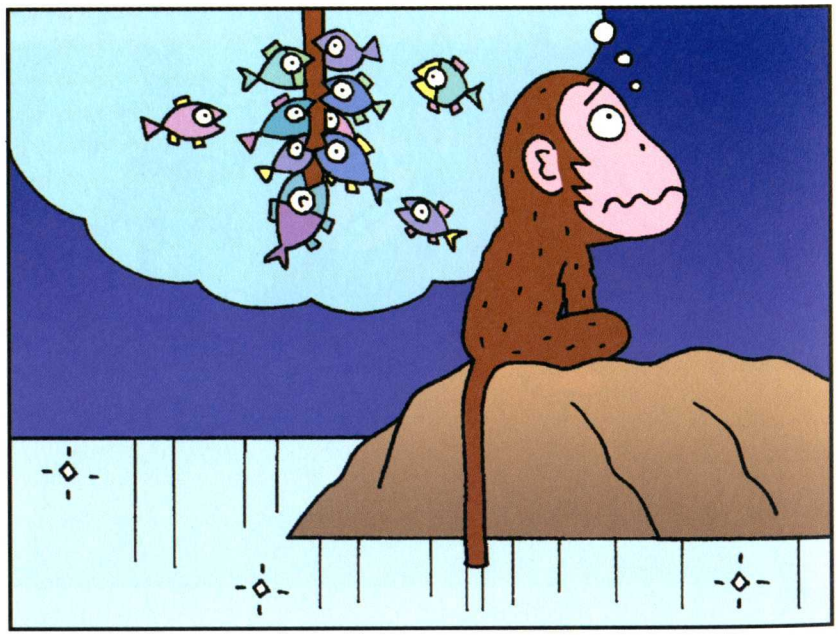
……三時間。

――おー、寒い。尾も体も顔も冷たい。

もうだめだ！――

尾は、とても重いです。

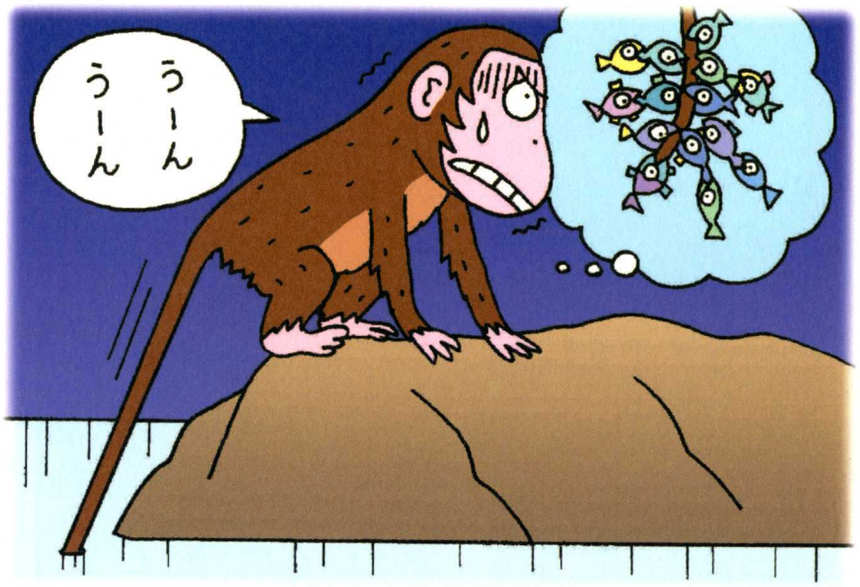
――もう、尾を水から出しましょう――

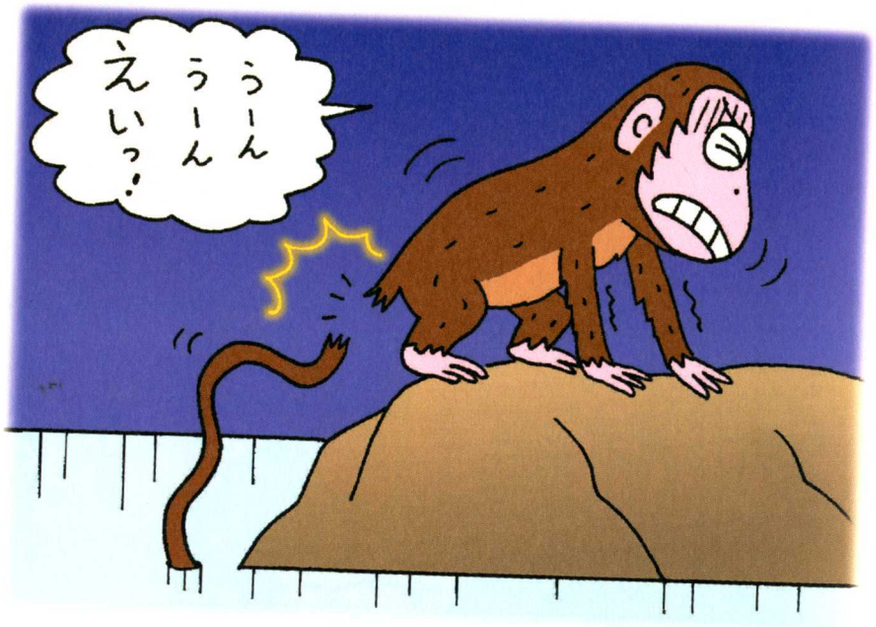


猿は、尾を水の中から出したいです。
でも、出ません。

「うーん、うーん」

――たくさんの魚がいますから、
重いです――





もっと、力を出します。

「うーん、うーん。えいっ!」

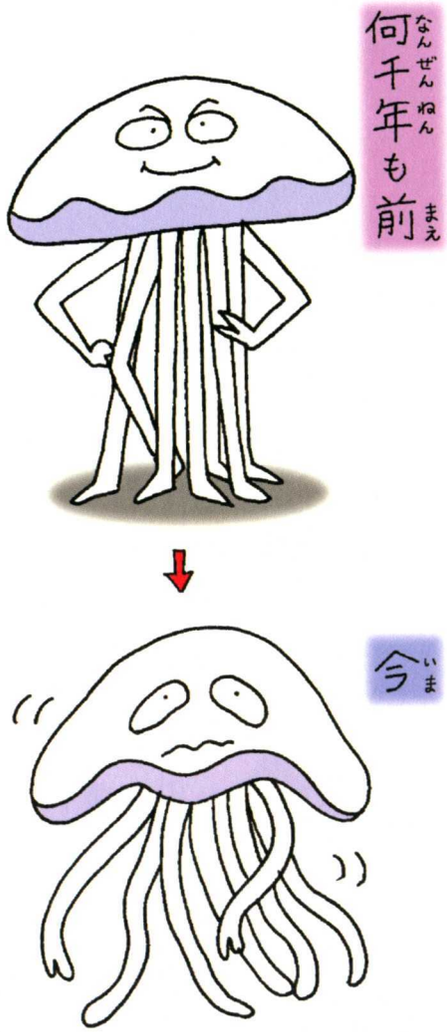
プッツーン。

猿の長い尾が切れました。

それから、日本の猿の尾は短いです。

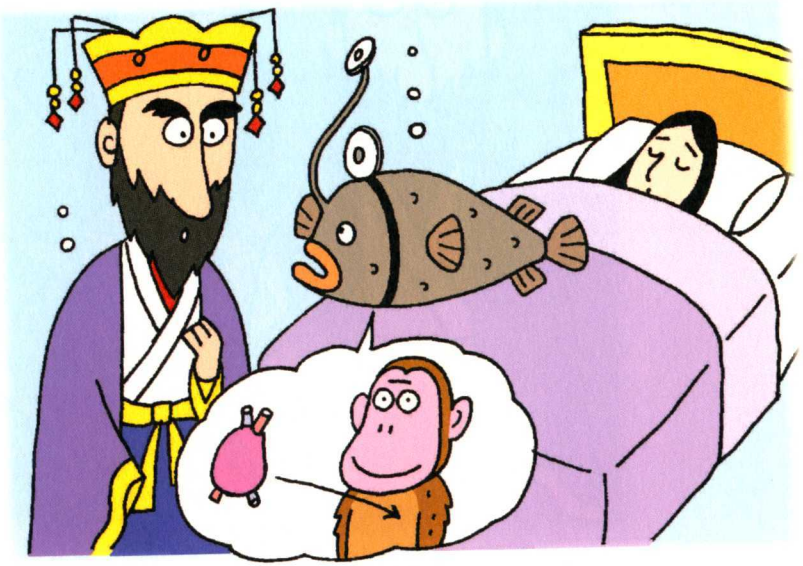
どうしてクラゲは骨がない？

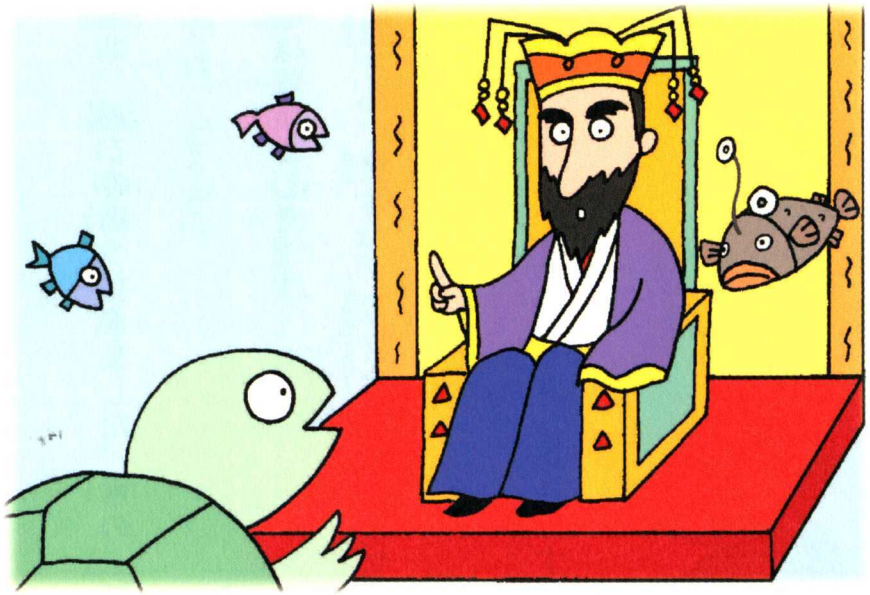
何千年も前、クラゲは骨がありました。
でも、今は、骨がありません。
それは、どうしてでしょう？



海の中に、竜宮城がありました。
そこには、王様とお后様がいました。

お后様は病気です。
いろいろな薬を飲みました。
でも、どの薬もだめでした。
医者の魚が言いました。
「海の中には、もう、いい薬はありません。
猿の心臓が体にいいですが、
海の中には、ありません」
王様が言いました。
「じゃあ、それは、どこに？」





医者の魚は答えました。
「私は知りません。
でも、亀がわかります。
亀は、なんでもわかりますから」
亀が、王様の前に来ました。
王様は言いました。
「私は、猿の心臓が欲しい」
亀は、すぐに答えました。
「猿の心臓ですね。わかりました」

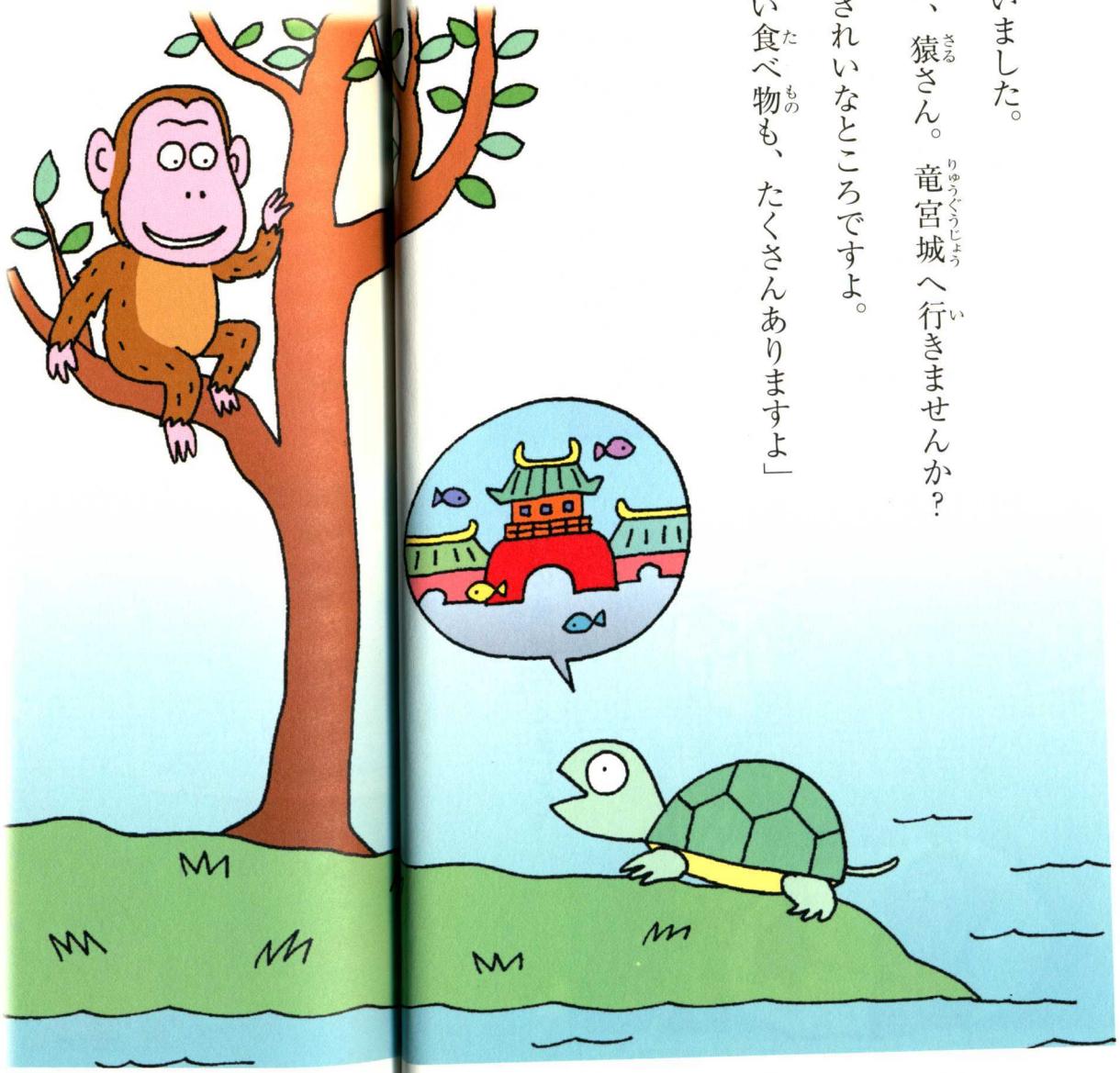
亀は、近くの島へ行きました。木の上に猿がいます。

亀は言いました。

「猿さん、猿さん。竜宮城へ行きませんか？

とてもきれいなところですよ。

おいしい食べ物も、たくさんありますよ」

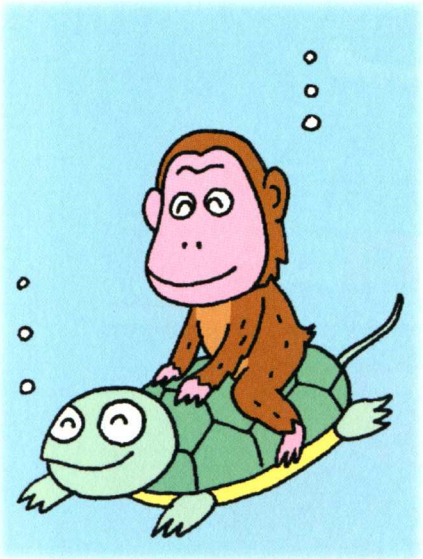


「え、そうですか？

行きます、行きます！」

「では、どうぞ」

猿は、亀に乗りました。

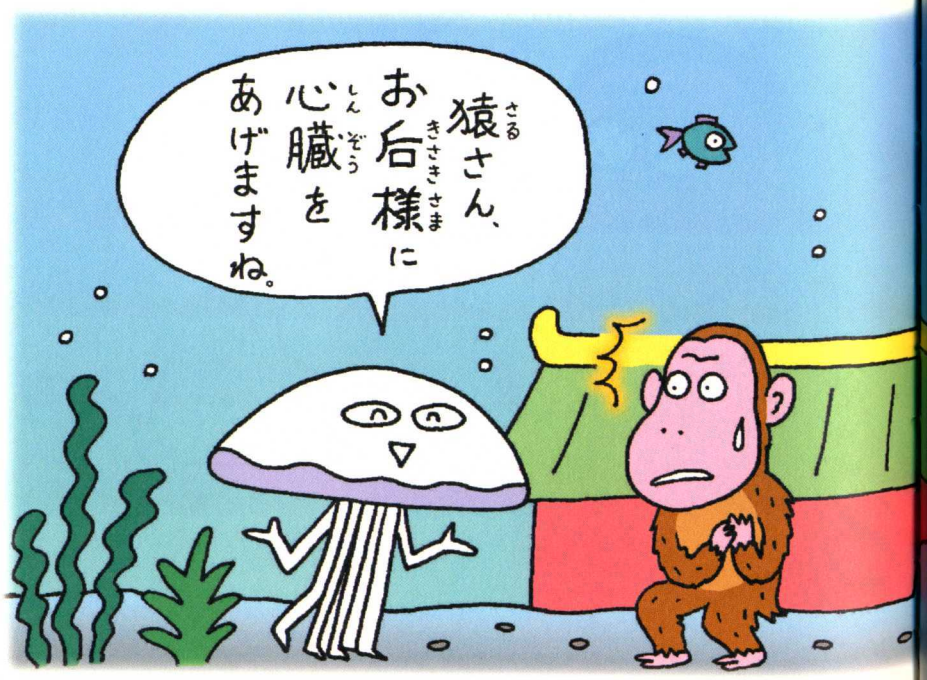


竜宮城へ来ました。
竜宮城は、とてもきれいです。

猿は、亀から降りました。
亀は、竜宮城の中へ入りました。

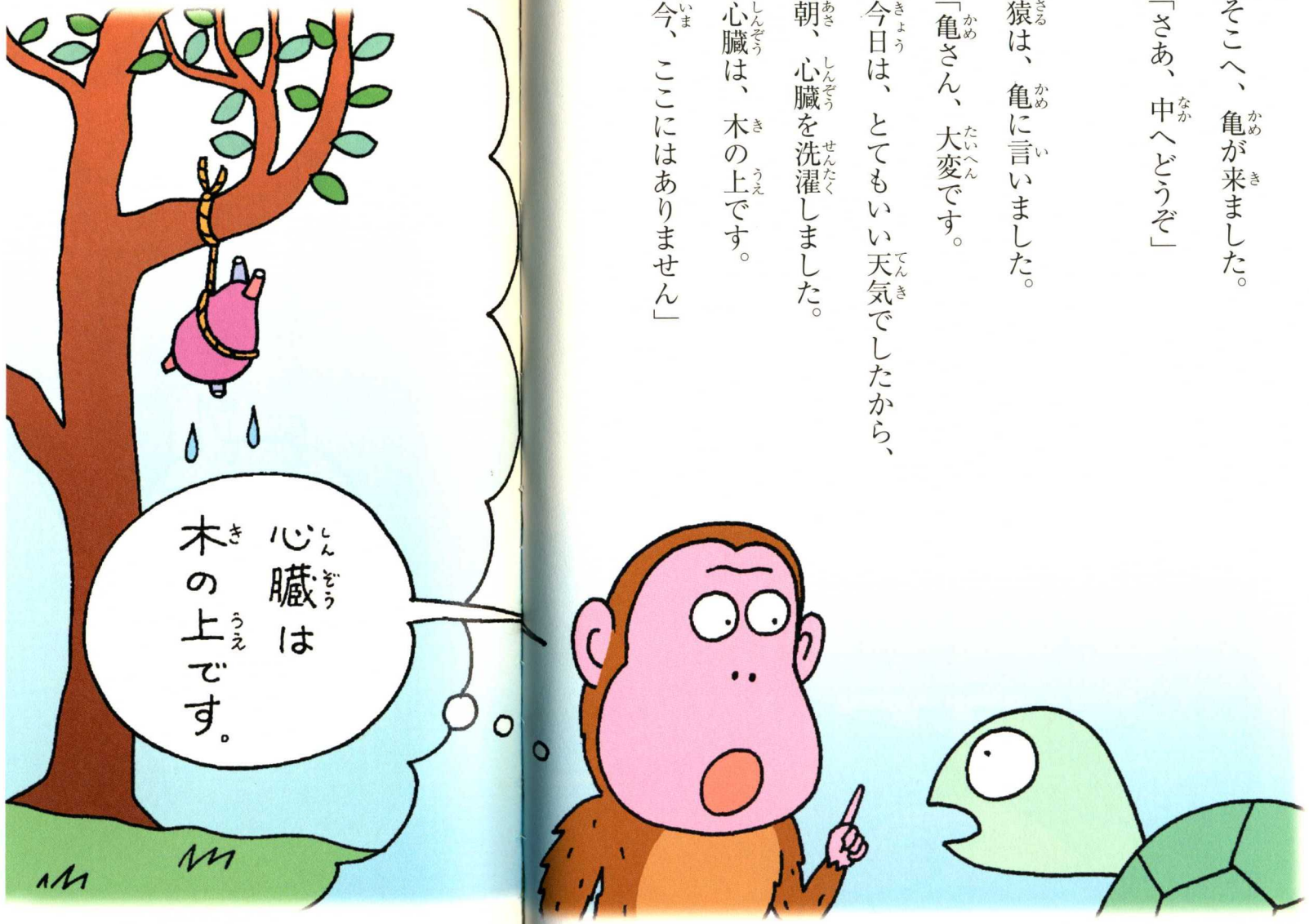
猿は、外で待ちます。
そこへ、クラゲが来ました。

クラゲは、猿に言いました。
「猿さん、ありがとう」
「えっ？」
「これから、
お后様に心臓をあげますね？」
「えーっ!?」
「猿の心臓は、とてもいい薬です」
「……」



そこへ、亀が来ました。
「さあ、中へどうぞ」

猿は、亀に言いました。
「亀さん、大変です。
今日は、とてもいい天気でしたから、
朝、心臓を洗濯しました。
心臓は、木の上です。
今、ここにはありません」

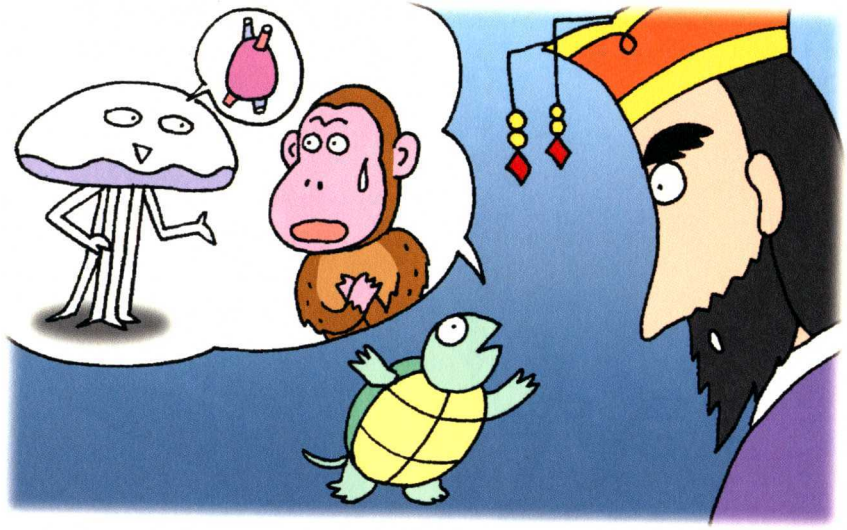


「えっ、それは大変。
一緒に島へ帰りましょう」

猿と亀は、島へ帰りました。
猿は、すぐ、一番高い木の上に行きました。

亀が聞きました。
「猿さん、心臓は、ありましたか？」
猿は、木の上から言いました。
「クラゲさんから聞きましたよ。
亀さん、あなたは、私の心臓が欲しいですね。
心臓は、木の上にはありません。私の体の中ですよ。
洗濯は、できませんよ」

亀は、一人で竜宮城へ帰りました。



王様が聞きました。
「猿の心臓は、どこだ？」
亀は言いました。
「猿の心臓は、ここにはありません。
猿は帰りました。島にいます。木の上です」
王様は、また聞きました。
「どうして？」
亀は答えました。
「クラゲが、猿に心臓のことを話しましたから」
「何？　クラゲが!?」

王様は、とても怒りました。
それから、クラゲは……
それから、クラゲは
骨がありません。